


だい ぶ かだい  
第5部 課題

だい かい  
第24回  
まいにち にゅうりょく  
毎日パソコン入力コンクール  
とう き たいかい  
冬季大会  
か だい  
【課題】  
だい ぶ わぶん しょうがくせいてい ちゅうがくねん  
第5部 和文A 小学生低・中学年  
ことわざ・慣用句①  
せいげんじかん ふん  
制限時間5分

ちゅういじこう  
【注意事項】

1. 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。
2. 改行 (Enter) は、の箇所を入力してください。それ以外の箇所では改行されていない場合、不正解となります。

さんこうぶんけん しょうがくかん かんようく じてん もじすう じていど  
※参考文献：小学館 慣用句びっくりことば事典（文字数1,800字程度）

しゅさい  
主催

まいにちしんぶんしゃ  
毎日新聞社


こうえん  
後援

いっぽんしゃだんほうじん にほん のうりょくけんていいんかい  
一般社団法人 日本パソコン能力検定委員会


そうむしょう  
総務省


もんぶかがくしょう  
文部科学省


こうせいろうどうしょう  
厚生労働省ほか


※  の箇所かしよ かいぎようで改行 (Enter) してください。


きゅうひょうじ (級表示は、ミスカウント0の場合ぼあい にゅうりょくの入力めやすです)


まな板いたのこい 


ふくろのねずみ 


ねこに小こばん 


かえるの子こはかえる 


きつねとたぬき 


頭あたまかくしてしりかくさず 


ぬかにくぎ 


花はなよりだんご 


おににかなぼう 


親したしきなかにもれいぎあり 


そなえ10級↓あればうれいなし 


にがした魚さかな おおは大きい 


へそで茶ちゃをわかす 


こいのたき↑8級のぼり 


ちりもつもれば山やまとなる 


るいは友ともをよぶ 


立つ鳥とりあとをにごさず 


目は口くちほどにものを言う 


昔むかしとったきねづか 


くさいものにふたをする 


人ひとのふり見てわがふり直なおせ 


ももくり↓準2級三年さんねんかき八年はちねん 


とんびにあぶらあげをさらわれる 

ほねおりぞんのくたびれもうけ 


けんえん↓2級のなか 


なきっつらにはち 


りょうやくは口くちににがし 

身みから出でたさび 



うでをふるう 

自分じぶんの力ちからやうでまえを十分じゅうぶんに表あらわす。 

イラストのとくいなかれば、学級新聞がっきゅうしんぶんでうでをふるっている。 



かみなりをおとす

かみなりが鳴るような大声おおごえでどなりしかる。

まどガラスをわったら、おじさんにかみなりをおとされた。

↓

あいづちをうつ

あいての話はなしにちょうしをあわせる。

あいづちをうちながら、話はなしを聞く。

↓

耳みみをかたむける

一生いっしょうけんめいに、ちゅういして聞きこうとする。

秋あきの夜よるは、虫むしのなき声こえに耳みみをかたむける。

↓

足あしをのばす

のびのびとゆっくり休やすむこと。決きめていたところより、もつと遠とおくまで行くこと。

いつもより足あしをのばして、となりの町まちのデパートで買かい物ものをした。

↓

いきをぬく

気き分ぶんをかえたり、やわらげたりするため休やすみをとる。

いきをぬくひまもなく、しごとをする。

↓

ふでが立たつ

ぶんしょうを書かくことが上じょうず手である。

姉あねはふでが立たつので、しょうらいは作さっか家かになりたいと言いっている。

↓

目めをうばわれる

目めをひきつけられるほど、すばらしい。

五ご月がつのわかばは、目めをうばわれるほどあざやかだ。

↓

馬ばりき力をかける

いちだんとかんばってしごとをする。

そつぎょうせいさくのレリーフは、もうすぐかんせいなので、さらに馬ばりき力をかけよう。



花はなをもたせる

わざとまけてやったり、手がらをあい手にゆずってやったりする。

ゲームで、いつもぼくがまけているものだから、今日は姉あねがぼくに花はなをもたせてくれたようだ。



雲くもをつかむ

物事ものごとがはっきりしないで、ぼんやりしていてとらえどころがないようす。

かれの話はなしは、雲くもをつかむような内容ないようが多く信じられない。



あぶらを売る

しごとちゅうに、なまけたり、おだ話ばなしなどをして時間じかんをつぶしたりする。

道みちで友人ゆうじんに会い、あぶらを売うっていたら、ピアノのけいこにおくれてしまった。



ちえをしぼる

ありったけのちえで一生いっしょうけんめい考えて、よいけんをだそうとする。

がっきゅうのみんなでちえをしぼって作り上げたげきなので、多くの人おおひとに見せたい。



いばらの道みち

とげのあるいばらの生はえている道みちのように、くるしみやこんなんの多い人間おおにんげんの一生いっしょうのたとえ。

そばは長いながいばらの道みちをのりこえて、自分じぶんでこうふくをつかんだ。



二にの足をふむ

ためらって、どうしようかとまよう。ためらう。しりごみする。

いちどしっばいしたことには、どうしても、二にの足あしをふんでしまう。



馬うまが合う

おたがいにきもちがよく合う。

わたしとかずこさんとは馬うまが合あって、しゅくだいやあそびをいつもいっしょにするなかだ。



目をくばる

よく気をつけて、あちらこちらを見る。

おうだんするときは、前の方だけでなく四方に目をくばってわたる。



手とり足とり

たいへんていねいに教えること。

親せきの大学生に手とり足とりべんきょうを教えてもらった。



気がきく

細かいところに心が行きとどく。

新聞と一緒にろうがんきょうを用意するとは、よく気がきくまごだね。



おねがすく

気にかかっていたことがなくなる。

わるものをつぎからつぎへとやっつける、しゅじんこうのおねがすくようなかつやくにみんなよろこんだ。



かたを落とす

思い通りにならず、がっかりする。元気をなくす。

子ねこがゆくえふめいになったと、かのじょはかたを落としていた。



ね耳に水

思いがけないできごとが、とつぜん起きてびっくりするようす。

たんになの先生がとつぜんやめるなんて、まるでね耳に水だよ。



顔が広い

世の中の人によく知られていて、知り合いが多い。


顔の広い先生は、町の人とよくつきあい、人気者である。




気にかかる


あるものごとが心からはなれず、しんぱいである。


かていか教室のガスゆわかしきをけしてきたかどうか気にかかった。


※  の箇所で行 (Enter) してください。


(級表示は、ミスカウント0の場合の入力めやすです)


まな板のこい 


ふくろのねずみ 


ねこに小ばん 


かえるの子はかえる 


きつねとたぬき 


頭かくしてしりかくさず 


ぬかにくぎ 


花よりだんご 


おににかなぼう 


親しきなかにもれいぎあり 


10級↓  
そなえあればうれいなし 

にがした魚は大きい 


へそで茶をわかす 


↑8級  
こいのたきのぼり 


ちりもつもれば山となる 

↓5級  
るいは友をよぶ 


立つ鳥あとをにごさず 


3級↓  
目は口ほどにものを言う 


昔とったきねづか 


くさいものにふたをする 


人のふり見てわがふり直せ 


↓準2級  
ももくり三年かき八年 


とんびにあぶらあげをさらわれる 

ほねおりぞんのくたびれもうけ 


↓2級  
けんえんのなか 


なきつつらにはち 


りょうやくは口ににがし 

身から出たさび 



うでをふるう 

自分の力やうでまえを十分に表す。 

イラストのとくいなかれば、学級新聞でうでをふるっている。 

↓準1級



---

かみなりをおとす

かみなりが鳴るような大声でどなりしかる。

まどガラスをわったら、おじさんにかみなりをおとされた。

あいづちをうつ

あいての話にちょうしをあわせる。

あいづちをうちながら、話を聞く。

耳をかたむける

一生けんめいに、ちゅういして聞こうとする。

秋の夜は、虫のなき声に耳をかたむける。

足をのばす

↓1級

のびのびとゆっくり休むこと。決めていたところより、もっと遠くまで行くこと。

いつもより足をのばして、となりの町のデパートで買い物をした。

いきをぬく

気分をかえたり、やわらげたりするため休みをとる。

いきをぬくひまもなく、しごとをする。

ふでが立つ

ぶんしょうを書くことが上手である。

姉はふでが立つので、しょうらいは作家になりたいと言っている。

目をうばわれる

目をひきつけられるほど、すばらしい。

五月のわかばは、目をうばわれるほどあざやかだ。

馬力をかける

いちだんとかんばってしごとをする。

そつぎょうせいさくのレリーフは、もうすぐかんせいなので、さらに馬力をかけよう。

---



花をもたせる

わざとまけてやったり、手がらをあい手にゆずってやったりする。

ゲームで、いつもぼくがまけているものだから、今日は姉がぼくに花をもたせてくれたようだ。



雲をつかむ

物事がはっきりしないで、ぼんやりしていてとらえどころがないようす。

かれの話は、雲をつかむような内容が多く信じられない。



あぶらを売る

しごとちゅうに、なまけたり、おだ話などをして時間をつぶしたりする。

道で友人に会い、あぶらを売っていたら、ピアノのけいこにおくれてしまった。



ちえをしぼる

ありったけのちえで一生けんめい考えて、よいいけんをだそうとする。

がっきゅうのみんなでちえをしぼって作り上げたげきなので、多くの人に見せたい。



いばらの道

とげのあるいばらの生えている道のように、くるしみやこんなんの多い人間の一生のたとえ。

そばは長いいばらの道をのりこえて、自分でこうふくをつかんだ。



二の足をふむ

ためらって、どうしようかとまよう。ためらう。しりごみする。

いちどしっばいしたことには、どうしても、二の足をふんでしまう。



馬が合う

おたがいにきもちがよく合う。

わたしとかずこさんとは馬が合って、しゅくだいやあそびをいつもいっしょにするなかだ。





目をくばる

よく気をつけて、あちらこちらを見る。

おうだんするときは、前の方だけでなく四方に目をくばってわたる。



手とり足とり

たいへんていねいに教えること。

親せきの大学生に手とり足とりべんきょうを教えてもらった。



気がきく

細かいところに心が行きとどく。

新聞と一緒にろうがんきょうを用意するとは、よく気がきくまごだね。



おねがすく

気にかかっていたことがなくなる。

わるものをつぎからつぎへとやっつける、しゅじんこうのおねがすくようなかつやくにみんなよろこんだ。



かたを落とす

思い通りにならず、がっかりする。元気をなくす。

子ねこがゆくえふめいになったと、かのじょはかたを落としていた。



ね耳に水

思いがけないできごとが、とつぜん起きてびっくりするようす。

たんにんの先生がとつぜんやめるなんて、まるでね耳に水だよ。



顔が広い

世の中の人によく知られていて、知り合いが多い。

顔の広い先生は、町の人とよくつきあい、人気者である。



気にかかる

あるものごとが心からはなれず、しんぱいである。

かていか教室のガスゆわかしきをけしてきたかどうか気にかかった。